

令和5年度
第2回運営委員会

令和6年 2月22日(木)
島根県立少年自然の家

令和5年度 第2回 島根県立少年自然の家運営委員会

日 時 令和6年 2月22日(木)

13:30~15:30

場 所 少年自然の家 第1研修室

13:30 開 会(進行:松川)

- ・少年自然の家所長 あいさつ
- ・自己紹介(名簿順に)
- ・資料確認
- ・日程説明(松川)

13:45 議 事(進行:委員長)

【報告事項】

1. 令和5年度 取組と課題(所長) 資料1
2. 令和5年度 利用状況及び受け入れ事業の報告(荒木) 資料2
3. 令和5年度 主催事業等の報告(三浦) 資料3
4. 令和5年度 施設整備・修繕報告(管理事務所長) 資料4

【協議事項】

1. 報告事項を受けて
2. その他

【情報提供】

- ・令和6年度の主催事業・受け入れ事業の予定(三浦) 資料5

15:25 閉 会(進行:松川)

- ・少年自然の家所長あいさつ

令和5年度 第2回 出席者名簿 (敬称略)

区分	No.	氏名	ふりがな	所属等	出欠	
運 営 委 員	1	安達 利幸	あだち としゆき	松江市立宍道小学校長	出席	
	2	井口 猛	いぐち たけし	江津市立桜江中学校長	出席	
	3	石山 忍	いしやま しのぶ	和木地区主任児童委員	出席	
	4	鍛冶 恵巳子	かじ えみこ	施設協力団体代表	出席	
	5	河村 美広	かわむら よしひろ	江津市子ども会連合会々長	欠席	
	6	坂本 博美	さかもと ひろみ	のぞみ保育園園長	出席	
	7	佐田尾 志おり	さだお しおり	元少年自然の家所長	出席	
	8	田中 茂秋	たなか しげあき	益田市立安田小学校長	出席	
	9	田中 利徳	たなか としのり	江津市教育委員会教育長【運営委員長】	出席	
	10	内藤 まり子	ないとう まりこ	出雲市立遙堪小学校長	欠席	
	11	南口 修	なんこう おさむ	都野津町づくり協議会事務局長	出席	
	12	舟木 志郎	ふなき しろう	江津市立高角小学校長	出席	
	13	山口 慶子	やまぐち けいこ	公益財団法人しまね海洋館魚類展示課長	出席	
少 年 自 然 の 家	14	河本 誠二	かわもと せいじ	所長		
	15	三浦 洋子	みうら ようこ	社会教育主事		
	16	荒木 友子	あらかき ともこ	社会教育主事		
	17	大野 勝義	おおの かつよし	社会教育主事		
	18	松川 成治	まつかわ じょうじ	社会教育主事		
	19	田中 敬通	たなか ひろみち	会計年度任用職員		
	20	(公財)しまね文化振興財団少年自然の家管理事務所長				
	21	青砥 智訓	あおと ともりの	主幹(兼)		
	22	吉浦 杏奈	よしうら あんな	主任主事(兼)		

令和5年度 第2回運営委員会 会場座席表

黒板

会場: 第1研修室

田中委員長

安達委員

佐田尾委員

井口委員

田中茂秋委員

石山委員

南口委員

鍛冶委員

舟木委員

坂本委員

山口委員

傍

聴

席

松川

荒木

三浦

河本所長

青砥

管理事務所長

大野

田中

吉浦

令和5年度 少年自然の家事業の評価と課題

1 受け入れ事業

- 今年度の利用実数は、1月末現在（統計による数字は以下同じ）において、7,532人である。昨年度の同時期と比較して2,346人増加した。

全体の研修者数（延べ人数）は、12,353人である。昨年と比較して6,361人の増である。また、受入れ団体数は273団体であり、昨年と比較して22団体増加している。

今年度の実績を令和4年度と比較すると、全ての項目で増加している。これは、コロナ禍による利用者側の宿泊研修の自粛や当所における休所措置がなくなったためであり、回復傾向を示している。（令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症が感染症法上の位置付けが5類感染症に移行）

一方で、新型コロナウイルス感染拡大前で影響がほぼなかった年度（令和元年度）と比べると、利用実数は約5,400人の減である。また、研修者数は約9,700人、受入れ団体数は63団体減少している。つまり、利用が回復傾向ではあるが、まだ、完全に以前のような利用が戻っていない、またはコロナ禍を機に研修が形を変えて実施されているとも考えられる。

利用実数	令和4年度と比べ 145%の人数	➡	令和元年度と比べ 58%の人数
------	------------------	---	-----------------

研修者数（延べ人数）	令和4年度と比べ 206%の人数	➡	令和元年度と比べ 56%の人数
------------	------------------	---	-----------------

受入れ団体数	令和4年度と比べ 109%の人数	➡	令和元年度と比べ 81%の人数
--------	------------------	---	-----------------

また、今年度研修者数が減少しているその他の要因として、次の3点があげられる。

- ① 全ての学校を受け入れるために1泊2日の研修を依頼した。（調整後に2泊3日への変更も可能としたが、2泊3日で研修を組んだ学校は3校にとどまった。）
 - ② 感染症拡大防止による学級閉鎖などの措置によりキャンセルになった団体があった。
 - ③ 一団体（学校）あたりの児童・生徒数が減少した。（表4）
- 学校種別利用実数については、小学校に関しては宿泊研修の団体数61校で昨年度同期に比べて11団体増えている。また、令和元年度と比べても1校のみの減少であり、小学校に関しては、コロナ禍以前の状況に戻ってきたことが伺える。（キャンセルを含めると同数である）
 - 学校団体に関しては、学校のニーズの多様化、個々の児童に対して配慮を要するケースも増加している。研修の充実や事故防止の面からも研修支援の内容や方法について学校担当者との事前の打合わせや当日の緊密な連携が大切になってきている。そこで、今年度も研修プログラムごとの「打合せ資料」をもとに、開始30分前に研修スタッフと学校担当者と話し合いの場を持った。研修期間を通して団体の研修のねらいを達成するために大切なこの打合せは、自然の家ならではの支援の一つである。こうした関りがあるからこそ、入所団体のねらいの達成度や研修の満足度が高くなると感じている。団体の担当者からは打合せが煩瑣であるというような声は聞かれないが、学校側の立場に立ち、打合せの簡略化など、今後に向けた、よりよい支援方法を探っていく必要がある。
 - 救急を要する事故等については、重大な事故は発生しなかったが、6月に自然の家、敷地内でのクマの目撃例があった。内規に従って目撃後3日間は野外での活動を中止した。入所団体には代替えのアクティビティを提供し安全対策を図った上で活動してもらった。一方で、県の鳥獣対策専門員に助言をもらい、クマを寄せない工夫（においが発生するものを断つ、クマが好む植物の所在場所を把握する等）、クマに出会わない工夫（クマ鈴の準備、クマの痕跡の調査）を施した。また、万が一の事態に備え、クマ撃退スプレーも準備した。

同時に入所者へ“クマに出会わないために”“クマに出会ってしまったら”という視点でオリエンテーション時にポイントを伝えるようにした。

5～9月までにマダニに噛まれる事例が数件発生した。いずれも草の深いところに入っていないことから枯葉に潜んでいた可能性があり、活動後の対処や確認の大切さを入所時に伝えるようにした。

2 主催事業 ※詳細は、各主催事業報告書（資料3）に記載

○ 主催事業については、今年度も①子どもたちの「生きる力」を育む、②家族（親子）の絆を深める、③ボランティア養成を図る、④青少年社会教育施設での野外体験活動機会の充実を図る、⑤施設の利用拡大を図る、という5つの視点からなる15の事業を計画した。今年度は、クマの目撃情報や天候の影響により予定を変更したこともあったが、全ての事業を実施することができた。ここでは、①と②について特化して報告する。

○ 子どもたちの「生きる力」を育むことをねらいに据えた『子ども対象事業』として、「ジュニア・サマー・キャンプ」、「子ども探検隊」、「かわいい子には旅をさせよう」、「ジュニア・ウインター・キャンプ」を設定した。5泊6日の事業「ジュニア・サマー・キャンプ」、冬季のケビン宿泊等を伴う「ジュニア・ウインター・キャンプ」では途中で各々の思いの相違からトラブルも発生した。しかし、最終的にそのトラブルを乗り越えたからこそ、退所時により強い参加者間のきずなを深めたり、達成感を味わったりすることができた。トラブルが起こることを想定しながら、その中で参加者が考える場面を設定すること、最後には解決につなげていくことは、これからの時代を生きていく力を育むためにも特に大切にしたい視点であると感じた。

「子ども探検隊」「かわいい子には旅をさせよう」では一貫してテーマ（ねらい）を合言葉として意識づけていった。「自分一人のできることを大切にした「かわいい子どもには旅をさせよう」では炊飯活動をすることで自分の苦手な食べ物が好きになったと発表した子どもがいた。また、事業後に布団敷きや食事の準備などを自分でするようになった子どもが見られるなど成果が見られた。何よりも2日間で気持ちや行動を変えることができる子どもたちの素晴らしさを感じるとともに、変化を生み出す事業のプログラムデザインの重要性を感じた。

○ 家族・親子の交流、家族間の交流をねらいに据えた『親子・家族対象事業』として、「家族ではじめよう！キャンプ講座」「ミニ・キャンプ」、「チャレンジ・ザ・サマー」、「森と海のつどい」を設定した。

これらの事業は昨年までコロナ禍のため、家族内での交流が中心であった。今年度は、感染対策を図りながら家族間交流が生まれるように小グループでの活動を設定した。子どもが仲良くなるに連れ、保護者同士の会話も弾んだ。退所時には写真を撮ったり、連絡先を交換したりする姿も見られた。メディアのない中で親子や家族間で楽しみを創り出しながら過ごすという事業の意義を感じることができた。

3 その他（今年度のトピックス）

○ **イモームズの結成【自然の家ボランティアチーム】**

中学生5名、高校生1名、大学生12名、合計18名

初めは、職員から依頼されたことについて説明をしたり、手助けをしたりするなどの支援が多く見られた。次第に、参加している子どもにとって何が必要かを考えて寄り添いながら支援するといった関わりの変化がみられた。お互いが刺激を受けながらよりよい関わりができるようになってきた。

○ **新プログラム（障がい者スポーツ）のスタート【車いすバスケットボール体験】**

14団体のべ302名…利用団体指導者研修会 校長会などの広報による効果

オリジナルルールを考えさせるなど、誰もが安心して楽しむことができることを大切にしました。障がい者スポーツの普及に終始せず、インクルーシブ教育につなげるように団体担当者との打合わせを密にした。

○ 関連団体との結びつき【主催事業：「オープンデー」でのブース出展】

グラントワ、しまね自然子育てネットワーク、島根県キャンプ協会他 5 団体
新たな結びつきが生まれた事業となった。今後、事業を展開するために他団体との連携・協働は欠かせないことであるので、地道に外部団体へアプローチする必要がある。今回、実現はしていないがその他の団体とも可能性を探って協議した。

○ 研修の充実【野外における緊急対応研修・野外活動安全管理研修】

利用者が野外活動中に負傷したことを想定した実地研修を行った。それぞれが役割を分担した上で訓練をし、振り返りの中で課題を洗い出すことで、万が一の時に備えた。

野外活動安全管理研修は、野外アスレチックコースを有する他施設を訪問し、安全管理の様子を見て当所の安全管理の在り方を見つめなおすために計画した。しかし、今年度は荒天のため中止となった。

4 今後の課題

○ 利用促進

学校の現状は教職員の働き方改革、学習時間の確保、保護者への負担軽減などがあり、宿泊を伴う体験学習にとって逆風を感じることもある。しかし、その中でも当所を利用したいという気持ちになるように次のことを進めていく。

- ・ 教育的な価値を確かなものにしていく。(計画段階からの関わりを大切にする)
- ・ 魅力的なプログラム・新規のアクティビティの開発
- ・ 閑散期の利用促進 (他団体との関係づくりと PR)
- ・ 効果的な広報・広報の工夫

(SNS を活用したタイムリーな広報、チラシ等を使った効果的な広報)

○ 地域を含めた各種団体との関係づくり

江津市(民)の自然の家認知度、利用度を向上させる必要がある。そのためにも所外に出て、各種団体との関係をつくっていくことを大切にしたい。江津市内、または近隣の市町の社会教育施設・学校へ訪問し、具体的な入所につなげる。または、連携・協働による事業参加への提案を行う。可能な範囲で他団体の事業へ協力できないか検討していく。

○ 安全管理

安全で安心して、思い切り活動できるよう環境を整えていくことが求められている。動植物(クマ、ハチ、マダニ)、気象状況(熱中症、落雷)について職員で研修を続け、自然体験活動のプロとして正しく利用者に情報を提供していきたい。また、緊急対応マニュアルを見直していく。

○ 体験活動の一層の促進

子どもたちが置かれている状況を考えた時、体験活動の不足は加速されている。今だからこそ、体験活動の意味について考え、主催事業においては原体験(その後の生き方や考え方に大きな影響を与える体験)を組み入れたプログラムを大切にする必要がある。

○ 温かい空気の中でのフォローアップ体制

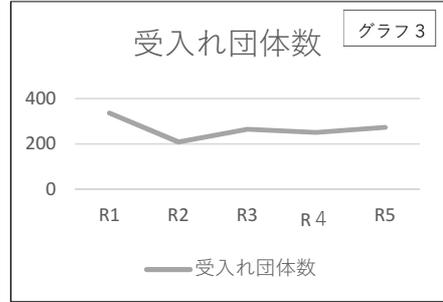
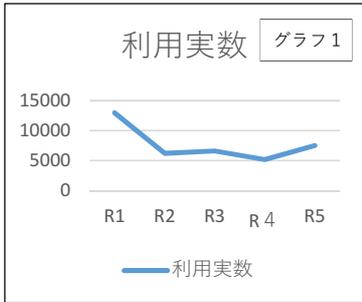
当所のよき風土の一つに、役割を超えながらフォローしていく体制が整っていることがあげられる。この温かい空気が流れる中だからこそ、よりよい教育活動が実践されていると感じる。これは一人の力ではなく、組織の力だと感じる。この空気をチームで保っていけるように、些細なことでも話し合える雰囲気を作り、課や役割を超えてフォローし合える組織でありたい。

(文責：河本誠二)

過去5年間の利用実数・研修者数・受入れ団体数(1月末) ※以降各年度1月末の数字)

表1

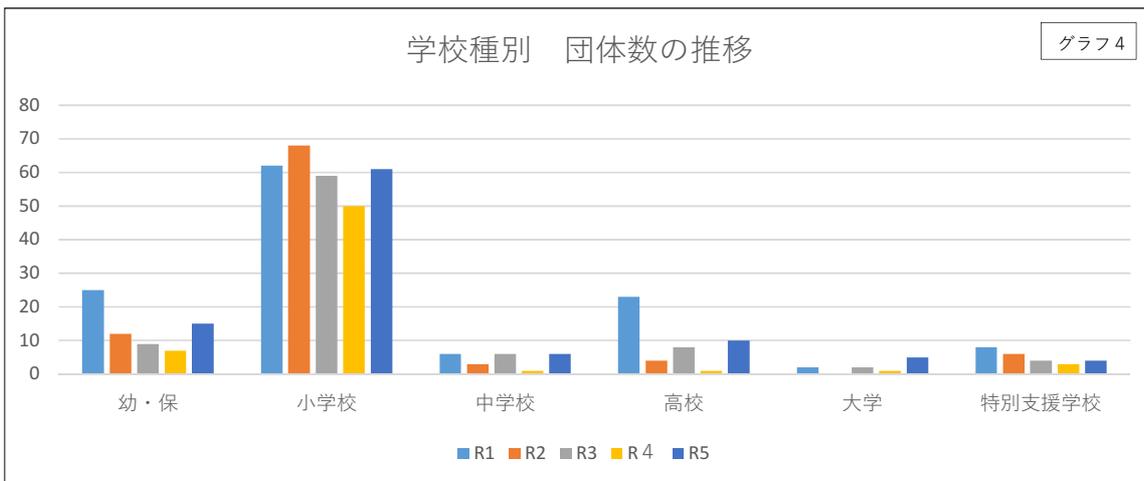
	R1	R2	R3	R4	R5	前年比	R1年比
利用実数	12981	6236	6611	5187	7532	145%	58%
研修者数	22011	9854	10647	5992	12353	206%	56%
受入れ団体数	336	209	265	251	273	109%	81%



過去5年間の学校種別団体数(1月末)

表2

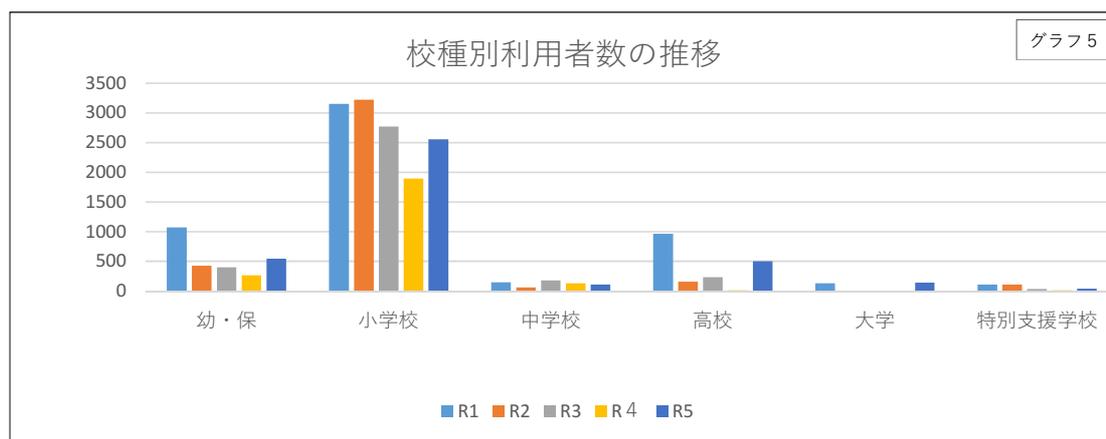
	R1	R2	R3	R4	R5	前年比	R1年比
幼・保	25	12	9	7	15	214%	60%
小学校	62	68	59	50	61	122%	98%
中学校	6	3	6	1	6	600%	100%
高校	23	4	8	1	10	1000%	43%
大学	2	0	2	1	5	500%	250%
特別支援学校	8	6	4	3	4	133%	50%



過去5年間の学校種別利用者数(1月末)

表 3

	R1	R2	R3	R4	R5	前年比	R1年比
幼・保	1069	431	404	266	547	206%	51%
小学校	3154	3220	2773	1893	2556	135%	81%
中学校	148	63	182	130	108	83%	73%
高校	962	158	236	14	504	3600%	52%
大学	133	0	11	0	141		106%
特別支援学校	109	111	32	13	42	323%	39%



1団体当たりの利用者数(利用実数)(1月末)

表 4

	R1	R2	R3	R4	R5
幼・保	42.8	35.9	44.9	38.0	36.5
小学校	50.9	47.4	47.0	37.9	41.9
中学校	24.7	21.0	30.3	130.0	18.0
高校	41.8	39.5	29.5	14.0	50.4
大学	66.5	0.0	5.5	0.0	28.2
特別支援学校	13.6	18.5	8.0	4.3	10.5

事業報告



島根県立少年自然の家

令和6年2月22日（木）

利用状況

1月31日までの比較

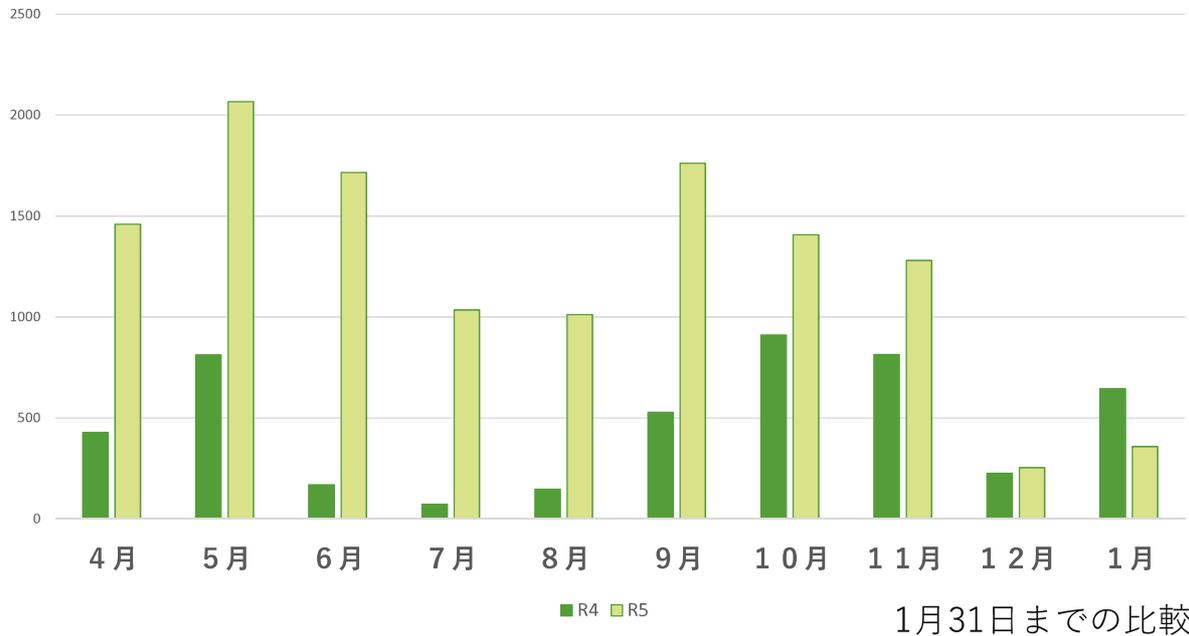
	令和5年度	令和4年度	増減
日帰り実数 (a) (人)	3,463	4,437	△974
宿泊実数 (b) 〔内 ケビン棟宿泊〕 (人)	3,819 〔74〕	750 〔593〕	3,067 〔△519〕
利用実数 (a+b) 「日帰り実数+宿泊実数」(人)	7,532	5,187	2,345
宿泊研修者数 (c) 「宿泊実数×(泊数+1)」 (人)	8,890	1,555	7,335
研修者数 (a+c) 「日帰り実数+宿泊研修者数」 (人)	12,353	5,992	6,361

※受入事業、主催事業、出展活動の合計数

研修者数 12,353人

(前年比6,361人増)

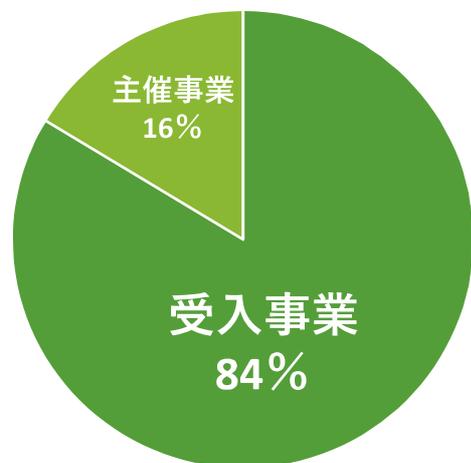
(人)



事業別利用実数

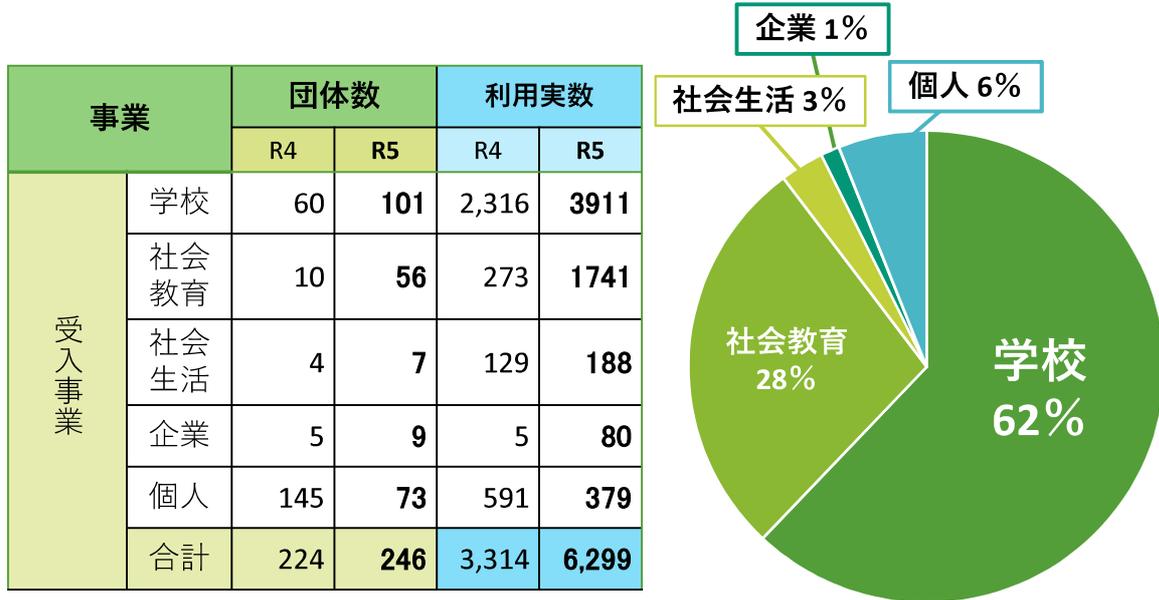
1月31日までの集計

事業		団体数		利用実数	
		R4	R5	R4	R5
受入事業	学校	60	101	2,316	3,911
	社会教育	10	56	273	1,741
	社会生活	4	7	129	188
	企業	5	9	5	80
	個人	145	73	591	379
	合計	224	246	3,314	6,299
主催事業		27	26	1,873	1,229
視察・その他		0	1	0	4
合計		251	273	5,187	7,532



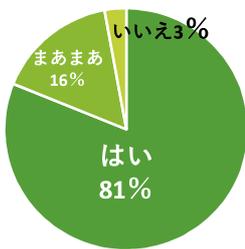
R5事業別利用実数

受入事業利用実数について 1月31日までの集計

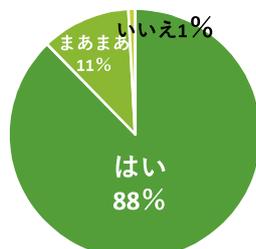


児童アンケートについて 1月31日までの集計

1. 自分のめあては達成できたか。



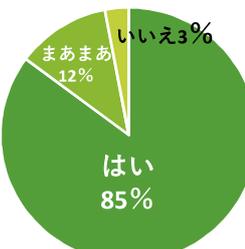
2. 活動に進んで参加できたか。



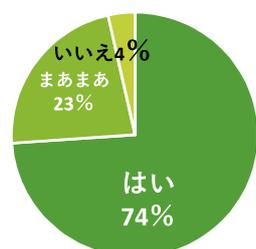
3. 友達のよいところが発見できたか。



4. 食事はおいしく食べられたか。



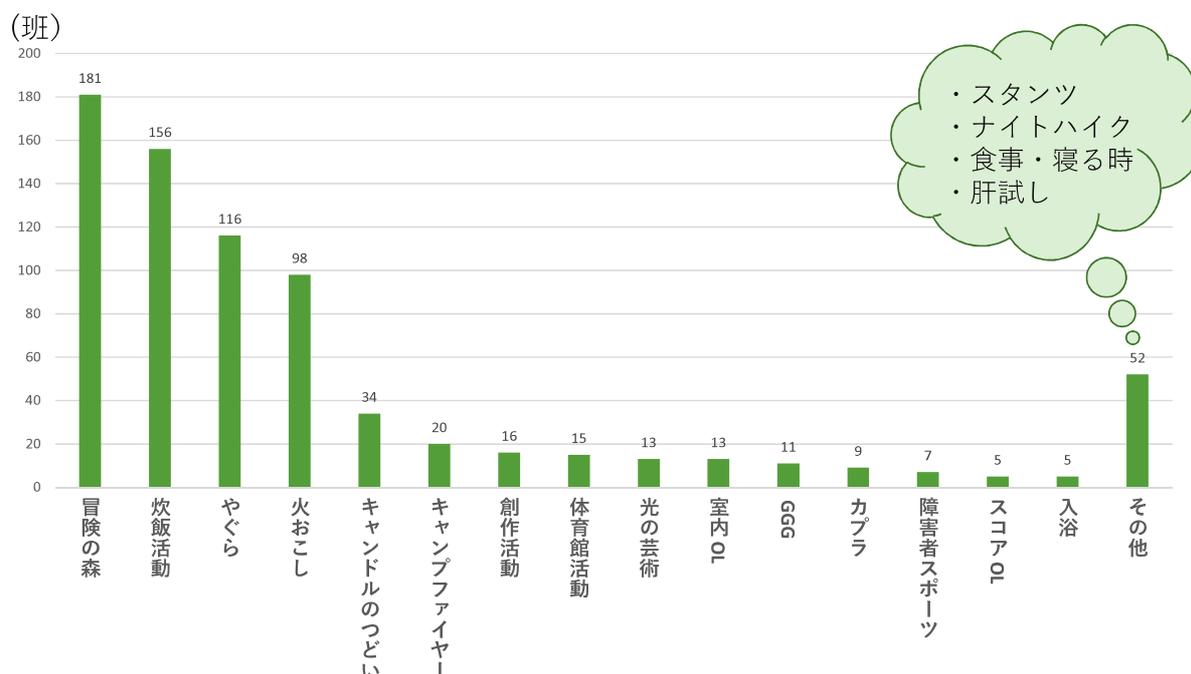
5. 職員の話は分かりやすかったか。



児童アンケートについて

1月31日までの集計

6. 心に残っている活動は何ですか。



児童アンケートについて

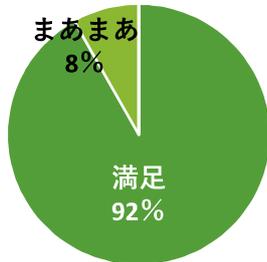
1月31日までの集計

- 大変だったけど、チームで「がんばれ！」と声をかけ合ってできた。
- 冒険の森では、みんなの優しさを感じられた。
- 帰りのバスでみんな「楽しかった」と言っていて、めあてが達成できたと思い、うれしかった。
- ハラハラドキドキでもものすごく楽しかった。
- はげましの言葉や行動がみんなできてすごいと思った。
- 火おこしで火がつきそうでつかなくて、ついた時がみんなですごくうれしかった。
- GGGの活動やカレー作りで協力の力がすごくついた。
- 自分からチャレンジすることがきた！
- 学校ではできないことを少年自然の家で学ぶことができてよかった。
- 楽しくてもう一泊したかった。
- 人生で1回だけの最高の研修になった！

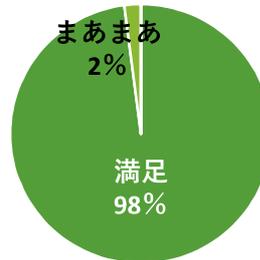


引率者アンケートについて 1月31日までの集計

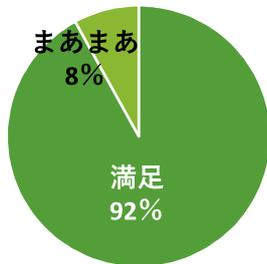
1. 安心して研修活動 ができたか。



2. 職員の対応は どうだったか。



3. 食堂の対応は どうだったか。



4. その他

- 数年ぶりの宿泊研修だったが、職員の方が一緒に考えてくださり心強かった。
- 細かい時間変更等にもその都度対応していただき助かった。
- 事前打合せがあったので安心できた。
- たくさんほめていただいた。
- ★クマや蜂の出没情報に不安があった。
- ★オリエンテーションの話がやや長く児童から分かりにくかったとの声があった。

一般受入について (小学校・特別支援学校以外)

保育所・中学校・高等学校

親子活動・スポーツ少年団・子ども会等

事業	団体数		利用実数		
	R4	R5	R4	R5	
受入事業	学校	60	101	2,316	3911
	社会教育	10	56	273	1741
	社会生活	4	7	129	188
	企業	5	9	5	80
	個人	145	73	591	379
	合計	224	246	3,314	6,299

アンケートより
満足度99.4%

- 参加された皆さんが安心して2日間活動することができた。
- 打合せ、出迎えも含めて歓迎して下さっていることが伝わってきた。
- △入所手続きの簡素化ができるのであればお願いしたい。

令和5年度島根県立少年自然の家主催事業

「利用団体指導者研修会」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 集団宿泊研修の教育的意義、及び内容・方法について理解する。
- ・ 当所での研修活動を効果的に展開するためのプログラム案を作成する。
- ・ 同時入所団体とプログラムの調整を図ることを通して、プログラムの再検討や、宿泊研修への見直しをもつきっかけにする。

2 事業の概要

〈第1回：前期（4／1～9／16）入所予定の学校担当者対象〉

期 日 4月26日（水） 参加者 32校の各担当者

〈第2回：後期（9／17～3／31）入所予定の学校担当者対象〉

期 日 7月28日（金） 参加者 26校の各担当者

- 〈内容〉
- （1）所長講話「今こそ体験活動を！」
 - （2）活動プログラム紹介
 - （3）施設見学
 - （4）昼食に合わせ、説明「食堂の使い方について」
 - （5）実習「活動プログラム体験」
 - （6）説明「研修計画の作成の留意点と入所手続きについて」
 - （7）団体間調整

3 事業の特色

宿泊研修を予定している学校団体の研修担当者を対象にした事業である。前期・後期に分けて施設のプログラム紹介、見学、実習などを体験することで、より効果的な研修計画を立ててもらうことを意図した事業である。見直しをもって児童への事前指導や教員間の話し合いができると思う。

4 成果

昨年度、前期はオンライン開催、後期は中止した当事業であったが、2年ぶりに現地（当施設）で開催することができた。参加者からは、「子ども達によりよい体験させたいという気持ちをもつことができた。」「実際に見学や体験ができ、イメージをもつことができよかった。」「配慮する点や検討が必要な点を確認できた。」「団体間調整では、よりよい案を提案していただきありがたかった。」という感想があり、前期は満足度96.6%、後期は満足度97.5%という高い評価をいただくことができた。年々、当施設の利用が初めての担当者が増えてきているため、この事業ではより丁寧に施設やプログラムの内容の説明をしたり、体験活動のよさを味わっていただける工夫をしたりしていく必要がある。また、前期は新年度初めの開催であり、参加者にとっては、事前提出書類等にも負担がかかると思われる。後期開催の際に試みたYouTube動画提供等も今後積極的に取り組んでいき、参加者の負担軽減につなげたい。



「家族ではじめよう！キャンプ講座」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ テント設営、野外炊飯等の活動を通して、基礎的なキャンプの技術を養う。
- ・ 自然の中での活動を通して、自然の良さを体感したり家族の絆を深めたりする。

2 事業の概要

(1) 開催日 1回目 令和5年5月20日(土)

2回目 5月21日(日)

対 象 小中学生とその家族(年中以上)

(2) 参加者 各回12家族(合計75名)

(3) 内容

- ① アイスブレイク
- ② テント組み立て
- ③ 野外炊飯「ライスクッカー炊飯」「たき火でホイル焼き」「マシュマロ焼き」
- ④ 自由遊び「浅利富士登山」「グリーンオリエンテーション」「遊具貸出」



3 事業の特色

この主催事業は、キャンプに興味があるが今までなかなかできなかったという家族を想定し、日帰りキャンプ体験を気軽に楽しんでもらえるように工夫した事業である。あえてキャンプ道具を家族で設営場所へ運んだり、水道から遠い場所を設営場所にしたりすることで、キャンプ場を想定した会場設定にした。また、職員からは、安全について等の必要最低限の説明や必要な支援のみにし、テントの立て方や炊飯の方法については、説明カードを家族で読み合って、作り上げていくような仕掛けにして、基礎的なキャンプの技術を養えるようにした。また、「たき火でホイル焼き」については、参加予定者に基本的な作り方シートを事前に郵送し、自分たちで具を考えて材料準備をしてもらうこととした。これによって、計画段階から楽しんでもらう工夫をした。テント組み立て体験と炊飯活動が終わった後には、自由遊びの時間として、家族の時間を楽しめるようにした。

4 成果

事後アンケートの「日々の雑事に追われていたが自然の中でとてもリラックスできた」「主体的に活動させるようになっていたので子ども中心に活動させることができた」「子どもたちが自分でもできるという気持ちが生まれた」という記述から、家族での時間を楽しみながら、キャンプの技術を養うことができたと思われる。全体の満足度は94%だったため、おおむね満足していただけただけなのではないかと考えている。また、ファミリー間での交流ができたならよかったという意見もあった。他の家族との交流は、主たるねらいではないが、今後、他の家族同士で自然と交流できるような仕掛けをしていきたいと感じた。6人の方が「次はテントで泊まりたい」とアンケートに書いておられ、この事業で得たことを今後活かしたいという意欲をもたれたことがうかがえた。

「ミニ・キャンプ」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ お手軽キャンプ体験やプログラムを通して、自然と親しんだり、家族の絆を深めたりする。
- ・ 全員が楽しみながら参加できる活動を通して、参加者同士がゆるく関わる機会を作る。

2 事業の概要

- (1) 開催日 7月8日(土)～9日(日)
対 象 小学生とその家族(年長以上)
- (2) 参加者 12家族(35名)
- (3) 内容
 - ① ミニゲーム(アイスブレイク)
 - ② 火おこし
 - ③ 炊飯活動「バーベキュー」「ホットサンド」
 - ④ 自由時間
 - ⑤ スコアオリエンテーリング
 - ⑥ 寝袋宿泊・(テント or ケビン棟宿泊)



3 事業の特色

本事業は、元々ケビン棟の利用促進を兼ねて、お手軽キャンプ体験を通じた親子のつながりづくりの一助となることをねらいとして始められた。昨年度から、キャンプブームでの需要を受け、ケビン棟泊だけでなく、テント泊の希望者も受け入れた。

5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたので、昨年度までの主催事業ではできなかった家族間交流ができるように計画を立てた。ミニゲーム(アイスブレイク)、火おこし、バーベキュー、スコアオリエンテーリングで、2家族以上の班で活動することで交流をはかった。

また、自然と親しむことができるよう、スコアオリエンテーリングや自由時間を設けた。

4 成果

当日は、豪雨と強風の荒天だった。1日目のはじめに少し晴れた時間があったため、急遽計画を入れ替えて、野外でのスコアオリエンテーリングを行い、その後は室内中心の活動へと切り替えた。また、荒天のため、ケビン棟泊は難しいと判断し、宿泊棟泊に変更した。ただし、テントで泊まりたいという家族もいらっしやったので、その希望を尊重し、屋根のある安全な場所でテント泊をしていただいた。

事後アンケートでは、「2日間で子どもたちや保護者の方とたくさん交流できた。ここまで仲良く過ごせると思わなかった。」「雨の中でも予定を変更してくださりありがとうございます。」「家族のよい思い出になった。」と書かれ、満足度は90%だった。一方で、「バーベキューは、気を遣うので家族ごとがよかった。」という意見もあった。このことから、募集の段階から主催事業の趣旨や家族間交流があることを、より明確に示す必要があると感じた。

また、6月から募集を開始した自然の家ボランティアクラブ「イモームズ」として、初めて中学1年生2名の参加があった。イモームズ2人がスタッフの一員として支える姿がよい手本となり、参加者の小学生たちが自発的に準備・片付けをする姿が多くみられた。

「ジュニア・サマー・キャンプ」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

日常では味わえない体験活動プログラムを通して、自然のよさや厳しさを体感したり、仲間と協力し励まし合いながら困難を乗り越えたりすることで、たくましく生きる力を育む

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和5年7月30日(日)～8月4日(金) 5泊6日
- (2) 対 象 小学校5・6年生 24名
- (3) 内 容
 - 1日目(出会い) 入所のつどい 仲間づくり 安全学習 夕食作戦会議
 - 2日目(森活動) ベースキャンプづくり ソロ炊飯入門 班で夕飯づくり
 - 3日目(山活動) ソロ炊飯で朝食づくり 浅利富士クエスト 山仕事に挑戦
班で夕食づくり
 - 4日目(川活動) ソロ炊飯で朝食づくり 川で生き物探し カヌー体験
班で夕食づくり
 - 5日目(海活動) ソロ炊飯で朝食づくり 海釣り 海遊び ベースキャンプ解体
バーベキュー炊飯 キャンプファイヤー
 - 6日目(最終日) ふりかえり ストーンアートで発表会

3 事業の特色

「仲間と挑戦!きっと何かが見つかる 見つける 自然の中で過ごす6日間」をキャッチフレーズに、夏休みに行く長期キャンプである。この事業における「たくましく生きる力」を「①自ら考え主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する。②他人と協力し合う。思いやる心。感動する心。③自らの体と心に向き合い健康で過ごす。体力をつける。」ととらえ、この事業を通して子供達につけたい力としてスタッフで共有し、事業に臨んだ。今年度は、2泊目～4泊目は「どんぐりの谷」にテントを張り、炊飯場を作り朝はソロ炊飯、昼は防災食、夜は班で考えたメニューを調理した。



4 成果

「挑戦・協力・愛」を合言葉に、6日間を過ごした。「友達がたくさんできた。」「いろんなことに自信が持てるようになった。」「普段のありがたさや自然の大変さなどがわかったので、いつものことに感謝して生活したい。」「今までは、話しかけてもらって友達になったけど、自分から話しかけた方が仲良くなれるような気がする。」といった感想からは、今後の日常生活に生かそうとする姿が伺える。最終日の夜のキャンプファイヤーで思い切り自分を出しながら楽しんでいた子どもたちの姿が印象的であった。



「チャレンジ・ザ・サマー」実施報告書

1 趣旨

- ・ 少年自然の家が提供できる活動を通して親子の絆を深め、夏の思い出づくりに寄与する
- ・ 自然体験活動を通じて、自然やものづくりへの興味関心を高める

2 事業の概要

- (1) 期 日 8月19日(土)～20日(日) 1泊2日
- (2) 会 場 島根県立少年自然の家
- (3) 対 象 小学校とその保護者
- (4) 参加者 19家族 53名(小学生28名、保護者25名)
- (5) 日 程 〈プログラム構成〉



1日目 8月19日(土)	2日目 8月20日(日)
9:30 ~ 受付 10:00 入所のつどい 10:30 家族で火おこし  13:00 冒険の森〈2家族1班,10班編成〉 記念のペンダント作り 18:00 夕食(食堂) 19:00 浅利富士ナイトハイク 21:30 ~ 入浴・就寝	6:00 起床 6:15 朝の自由散策 7:00 家族でホットサンド(朝食) 9:00 スコアオリエンテーション 10:30 家族カレー炊飯(昼食)  13:30 退所のつどい : 終了 14:00

3 事業の特色

「2023夏の思い出をつくろう!この夏、自然を満喫しながら親子の絆を深めよう!」を、テーマとした。家族で火おこし、そしてその火をもって始まる2日目の家族カレー炊飯へとつないでいくプログラムの流れとした。また複数家族でグループを編成し、冒険の森、ナイトハイクやオリエンテーリングなど家族間交流をねらった活動を組み込んだ。併せて、記念のペンダントづくりに親子で取り組み、この夏の思い出の形づくりとした。

4 成果

- 参加者アンケートから、テーマの達成度は、①今年のご家族の思い出となりましたか 99%
- ②家族で力を合わせて、体験活動や炊飯活動に挑戦しよう 96%
- ③自然とふれあうことよさを確かめよう 93%。経年比較からも満足度の高さを感じた。また参加者の感想からは、「子どものがんばる姿に、こんなにもできるんだと感じる場面がたくさんありました。」「おかあさんとそんなにきょうりよくしてなかったから、きょうりよくしてたのしかった。」・・・

子どもの成長を感じ取り、日ごろを振り返りながら、家族が互いの思いを寄せ合う2日間となったように思う。



「子ども探検隊」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 江津の教育資源を活用した探検活動を通し、自分や友達のよさを見つける。
- ・ 自然の中で感覚をとぎすまして遊ぶことで、自然と親しむ。
- ・ 集団生活やグループ活動をすることで、規律・礼儀作法などの基本的な生活習慣を学んだり、協力するよさを味わったりする。

2 事業の概要

- (1) 開催日 10月14日(土)～15日(日)
対 象 小学3・4年生
- (2) 参加者 24名
- (3) 内容

- ① アイスブレイク・自然遊び
- ② 自然の家探検Ⅰ(課題チャレンジ含む)
- ③ キャンドルのつどい
- ④ 自然の家探検Ⅱ(ソロコース含む)



3 事業の特色

「自分の宝物を見つけよう！」という合言葉のもと、2日間を過ごした。1・2年生対象の「かわいい子には旅をさせよう！」は親元を離れて宿泊すること自体や個々のチャレンジに価値を見出しているのに対し、3・4年生対象のこの主催事業は、協力するよさを味わったり、勇気が必要な探検を通し自分や友達のよさを味わったりすることを趣旨に加えている。

1日目の「自然の家探検Ⅰ」では、4人班で協力しながら、自然の家の敷地を巡り、7体の妖怪(大学生ボランティア)から出される課題にチャレンジし、次の日の探検につながるヒントを得る。2日目の「自然の家探検Ⅱ」では、宝物を探すため再び4人班で探検をする。その中に一人だけで山道を歩くソロコースを設けた。スタートとゴールに人が見えない、少しスリルある山道にソロコースを設定することで、勇気を出してチャレンジすることをねらった。探検の最後は、全員でゴールし達成感を味わえるようにした。最後の振り返りには、探検の時に見つけた自分や友達のよさを伝え合い、自分の宝物を見つけられるような活動をした。

4 成果

当日を迎える2日前に、自然の家から3km以内で熊の目撃情報があった。浅利富士頂上を目指した探検を計画・準備をしていたが、浅利富士近辺での活動はリスクが高いと判断し、やむなく計画を変更することになった。ねらいはそのままに、自然の家の敷地内で安全に活動できる探検ルートを新たに考えた。職員の連携により、場所の変更があったものの安全に子どもたちに体験してもらうことができた。アンケート結果では、子どもたち全員が「楽しかった」、「自分や友達のよさを見つけることができた」と回答した。2日目の振り返りの時間には、全員が紙に自分の宝物(見つけた自分のよさ)を書き込み、一人ひとり配布した宝箱に入れることができた。見つけた宝物がその後の毎日の心の支えになることを期待している。

「オープンデー」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 広く県民に施設開放をし、県民に周知するとともに、利用促進を図る。
- ・ 利用団体や所と関連のある団体との結びつきをさらに深化させる。

2 事業の概要

(1) 開催日 10月29日(日) 10:00~16:00

対 象 どなたでも(高校生以下は、保護者同伴)

(2) 来場者 251名(72組)

(3) 内容

① 少年自然の家が提供した体験等

- ・ 冒険の森アスレチック体験
- ・ 車いすバスケット体験
- ・ 創作活動(目玉うちキーホルダー)
- ・ 土鍋ご飯体験
- ・ 食堂委託業者(ウオクニ株式会社)による、カレーライス等の販売



② 関連団体によるブース出展

- ・ しまね自然子育てネットワーク~どんぐりの谷でプレイパーク、マシュマロ焼き等の提供
- ・ いわみ福祉会~食品、コーヒーの販売
- ・ 島根県キャンプ協会~テントなどキャンプ用品の紹介と薪割り体験等の提供
- ・ 西部社会教育研修センター~親学の一環として「ほめばっちゃん」体験の提供
- ・ いわみ芸術劇場グラントワ~どんぐりの森での演奏会開催 11:00と13:30の2回

3 事業の特色

主催事業の中では、広く県民に周知し、施設を開放する目的を持った事業の一つであり、来場人数も一番多い。周知の方法としては、9月にチラシ配布を行い、LINE公式アカウント登録者には、4回メッセージを送信した。県庁を通して、報道機関にも情報提供を行った。コロナ禍により、中止が続き、4年ぶりの開催となった。前回までは、当所の体験活度の提供を主に行っていたが、今年度は当所を利用されたことのある団体に働きかけて、ブースの出展を募った。その結果、五つの団体に出席していただくことができた。プレイパーク、キャンプ体験、演奏会、親学、食品販売とバラエティーに富んだ内容となった。また、食堂の委託業者であるウオクニ株式会社にも500円カレーライスの販売などで協力を得た。当所からは、メインの活動である冒険の森アスレチックをはじめとして、創作活動や炊飯活動を提供した。特に、今年度から導入した「車いすバスケット」の体験は、実際に普段から楽しんでおられる方を招いて一緒に体験してもらうことができた。

4 成果

天候にも恵まれ、久々に200名以上の来場があった。「体を動かしたり、音楽に触れたり、薪割したり、普段できない体験ができました。」というアンケートの記述通り、家族で様々な体験をされた方が多かったと思われる。関連団体ともブース出展を通して、お互いの思いを伝えあうことができ、より繋がりを強化することができた。

「森と海のつどい」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 「森の豊かさは海の豊かさ」をテーマに、森と海のつながりを親子体験活動を通し、感じ取り学ぶ。
- ・ 1泊2日の活動を通して家族のつながりを深める。



2 事業の概要

- (1) 期 日 11月5日(土)～6日(日) 1泊2日
- (2) 会 場 島根県立少年自然の家、しまね海洋館アクアス、石見豊ヶ浦
- (3) 共 催 しまね海洋館「アクアス」
協 力 島根県立三瓶自然館「サヒメル」
- (4) 対 象 小学校 4. 5. 6年生とその保護者
- (5) 参加者 11家族 24名(小学生12名、保護者12名)
- (6) 日 程 : 〈プログラム構成〉

1日目 11月4日(土)	2日目 11月5日(日)
9:30 ~ 受付	6:00 起床
10:00 入所オリエンテーション アイスブレイキング etc.	6:30 朝の森を歩きましょう ～ 秋の深まる林をくぐって ～
12:00 昼食(食堂)	7:00 森の朝食(どんぐりの森の中で) ～ ホットサンドをご家族ごとに ～ — アクアスへ
13:00 さあ、森へ出かけましょう 三瓶自然館「サヒメル」研究員さんと一緒に ～ 体験活動や森のお話 ～	10:00 アクアス 探索、バックヤードへ ～ 人と海とのつながり ～ 昼食(弁当) — 豊ヶ浦へ
	12:30 磯や潮だまりに暮らす 生きものたちに会いに行きましょう アクアス 飼育スタッフの皆さんと一緒に
19:00 夜の森へ出かけましょう 自然の家スタッフと一緒に	14:30 森と海の2日間をふりかえって
21:00 ~ 入浴・就寝	現地(豊ヶ浦)にて解散: 終了15:00

3 事業の特色

「森の豊かさが海を育てていること」を、感じ取る活動の流れを、サヒメル、アクアススタッフと共同開発したプログラムである。家族同士の出会いの場から森へ出かけ、森の多様性から見えてくる豊かさを感じ取り、施設周辺にみられる鉄分が海へと注がれていく、そのストーリーを、自作シールをもってアクアスの水槽へとつないだ。そして、海へ出かけ潮だまりに暮らす生きものから、その豊かさに気づき、学んでいくプログラム構成とした。併せ、家族同士の交流活動を通し、家族のつながりを深めていくことをねらうプログラムとした。

4 成果

「島根がとても自然豊かで良いところと言われ、そんな島根で生活していることが、うれしく思った。」「3回目の参加でしたが、一番、森と海のつながりを感じた気がします。」「カニをつかまえて良かった。山、川海はつながっていることを知った。」「親子で協力しながらチャレンジできて良い思い出ができました。」「・・・。(参加者の感想から)

親子による体験活動を通し、森と海の豊かさのつながりを互い語り合い、家族のつながりも深まっていく2日間のプログラムの流れであったように思う。



「エンジョイ・アウトドア」実施報告書

1 趣旨

自然の中で思い切り体を動かしたり、体験活動プログラムを活用したりすることを通して、子どもたちの積極的な態度の醸成や、自己肯定感の向上を図る



2 事業の概要

(1) 開催日 11月10日(金) 9:50~活動終了後各団体退所

対象 浜田教育事務所管内教育委員会教育支援センター等
児童・生徒及び引率者

(支援センターに通っていない児童・生徒も参加可)

参加者 児童・生徒 18名 引率者 18名 計36名

内訳

大田市教育委員会「あすなろ教室」	児童2名	生徒2名	引率者5名	計9名
江津市教育委員会「あおぞら学園」	児童3名	生徒5名	引率者6名	計14名
浜田市教育委員会「やまびこ学級」	児童3名	生徒3名	引率者7名	計13名

内容 ①野外炊飯活動(バーベキュー、かまどでご飯炊き)

②選択活動

晴天の場合:冒険の森 スコア0L グリーン0L

雨天の場合:室内0L 体育館活動 カプラ

※当日、希望の活動ができるよう柔軟に対応



3 事業の特色

県教委による「青少年社会教育施設での野外体験(キャンプ・バーベキュー等)活動機会の充実」の取組を受け、本施設の主催事業としての実施3年目である。この事業では、昨年度までと同様に、対象を教育支援センターに通う子どもたちとしたが、今年度は、江津市、浜田市の校長会で広報をし、教育支援センターに通っていない子どもたちにも声をかけ、参加の相談に応じるようにした。(結果として参加はなかった。)昨年度の課題として「年1回の場合ではなく、各団体の希望により、複数回このような活動ができるようなシステムの構築をめざす。」があり、今年度は受け入れ事業としても対応できるようにした。受け入れ事業では、対象を「放課後等デイサービス、児童養護施設、児童相談所」に通う子どもたちとし、より多くの子どもたちに野外体験活動の機会を設けるよう努めた。

4 成果

昨年度までに出た課題をいかし、今年度は、参加団体に事前に「子どもたちが主体的に活動できるように役割分担をすること」「引率者の方は子どもたちが安全に、安心して活動できるよう見守ること」をお願いした。活動後の子どもたちのアンケートには、「火をたいたりおしゃべりしながら野菜を切ったりして、最後に作ったのを食べてとても楽しくてよかった。」といった活動自体を喜ぶ意見や、「人との関わりがもてたことがうれしかったので楽しかった。」という人と関わることの喜びが感じられる感想が見られた。また、引率者からも「BBQでは、スタッフがあまり手をかけず子どもが活躍できてよかった。」「自分の仕事を最後まで責任をもってやりとげようと頑張っている姿を見てとても嬉しいきもちになった。」「いつもと違う場所、人とかわることのできる良い機会と感じている。近くにこのような体験ができる場があるので今後も利用していきたい。」といった感想があり、子どもたちの主体的な体験活動を見守ることを通して、その良さを改めて感じる機会となったことが伺えた。

「かわいい子には旅をさせよう！」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 自然の中で思いきり活動することで自然に親しむ心を育む。
- ・ 保護者のもとを離れた宿泊体験活動をすることで、自主・自立の精神を養ったり、基本的な生活習慣を育んだりする。

2 事業の概要

(1) 開催日 1回目11月18日(土)～19日(日)

2回目12月2日(土)～3日(日)

対象 小学1・2年生

(2) 参加者 各回20名(合計40名)

(3) 内容

- ① アイスブレイク・自然遊び
- ② できるよ!チャレンジの旅
- ③ 煮込みうどん炊飯
- ④ 寝る前のストーリーテリング(協力:おはなしタンポポ)
- ⑤ お掃除タイム
- ⑥ 葉っぱでスタンプ絵はがきづくり
- ⑦ どんぐりの谷遊び



3 事業の特色

当所の主催事業の中でも、保護者の関心が高く応募人数が多いのが、この「かわいい子には旅をさせよう！」である。1・2年生にとって、自然体験をすること以上に、親元を離れて宿泊することに大きな不安があると考えている。そこで、アイスブレイクや寝る前のストーリーテリング、どんぐりの谷遊び等、子どもたちが安心して楽しめるように、活動内容を工夫した。また、家庭生活とのつながりを意識して計画を立てた。子ども用包丁を用いて煮込みうどん炊飯をしたり、布団敷きやお掃除をしたり、葉っぱでスタンプを押した絵はがきを保護者に向けて書いたりした。「できるよ!チャレンジの旅」では、班に分かれて自然の家の敷地内に設けた様々なチャレンジコーナーを巡った。ゴールした際には、子どもたちの力で乗り越えられたことを称え、「できるよ!バッチ」を渡し、焼きマッシュマロをみんなで食べて、喜びを分かち合う構成にした。

4 成果

退所の際には、2日間でよい人間関係が築けた様子が見られた。子どもたちが他の子どもやボランティアの学生、職員と名残惜しそうにお別れする様子が印象的だった。

事後の保護者アンケートでは、「さっそく食事づくり(うどん)にチャレンジしました。家族でもそのような姿勢を大切にしていきたいと思います。」「つり橋をわたるのがこわかったけど、勇気を出したらできた。と言っていた。」という言葉をいただいた。チャレンジする心や自己有用感が育つ手助けができたのではないかと考える。また、「妹もぜひ参加させていただきたい。」という言葉から、安心して預けられると感じていただけたことが伺われ、成果の一つだと考える。

「ジュニア・ウインター・キャンプ」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・仲間と一緒にチャレンジしていくことの大切さを体得する。
- ・人の温もりや仲間の温かさを感じ取り、仲間と共に成長していこうとする態度を培う。

2 事業の概要

- (1) 期 日 12月23日(土)～24日(日) 1泊2日
 (2) 会 場 島根県立少年自然の家
 (3) 対 象 小学校5・6年生 16名
 (4) 日 程 : 〈プログラム構成〉



1日目 12月23日(土)	2日目 12月24日(日)
9:30 ～ 受付	6:00 起床
10:00 入所オリエンテーション アイスブレイキング etc.	6:20 朝の寒風体操 (ラジオ体操第1・第2) ～ 深まる冬の森の中で ～
12:00 昼食(食堂)	7:00 冬の森での朝食 ～ あっつあつのホットサンド ～
13:00 冬の森に出かけましょう ～ 森のお話や体験活動～	9:30 ウインタークライミング 冬の森を歩きましょう 山の頂上を目指しましょう グループ登山から一人登山 ～ グループワークとソロワーク ～
15:00 ワークショップ ～ チームワークと グループワーク ～	昼食(お弁当)
16:30 たき火を囲んでクリ ームシチュー(夕食)	(13:30～14:30 保護者プログラム参観)
19:00 Xmas キャンドルサービス	14:00 ウインターキャンプ ふりかえり
20:30 — たき火囲い —	14:30 解散
22:00 入浴就寝 ケビン棟泊	



3 事業の特色

進学・進級を迎える小学校5・6年生16名を対象に、仲間と共にチャレンジし、個々の成長へと促すキャンプとして位置づけ、プログラムを構成した。出会いの場から始め、冬の森の楽しみ方を講師との体験に学び、ワークショップを通してのグループ編成へ。クリスマスキャンドルのスタンプ企画とグループワークを重ね、ケビン棟での宿泊。

翌日は、早朝体操からソロ区間(一人登山)を設けたグループワーク登山を実施。ふりかえりの場においては、保護者参観の下、気づきや思いを分かち合うプログラムの流れとした。



4 成果

湯たんぽは、多くが初めてであり、2.7℃の夜をケビン棟で過ごした。まだ暗い寒風の中での体操、そしてグループワーク登山。冬の厳しさの中であって、人の温もりや仲間の温かさを感じ取ることも多かったように思う。「友達ができるかなって思っていたけど、たくさん友達できてうれしかったし、思い出がたくさんできました。また、この16人に会えたらいいなと思いました。」
 「車に乗るなり『話したいことがたくさんあります。』と大興奮で話が止まりませんでした。帰ったらすぐゲームを始めるとおもっていましたが、親に言われるまでに自分で荷物を片付け、体を動かして遊んでいました。」との感想もあり迎えに来られた保護者の皆さんにとっても、我が子の変容を感じ取ることのできた2日間であったように思う。



「ボランティアスタッフ養成講座」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ ボランティア活動に興味のある小中学生を対象に、ボランティアのスキルや意欲を高めるとともに、参加者どうしのつながりを深める
- ・ 今年度は、とくに「チャレンジする力」の向上を重点的にねらう



2 事業の概要

- (1) 開催日 2月10日(土)～11日(日)
- (2) 対象 小学校4年～中学校2年生
(かつての主催事業に参加した児童・生徒に案内し、その後追加募集を行った。)
- (3) 参加者 14名(小学生11名、中学生3名)
- (4) 日程

	1日目(2月10日:土曜日)	2日目(2月11日:日曜日)
	10:00 入所のつどい	7:00 朝のつどい
	10:30 「今日の出会いを大切に」 ～語り合える仲間になろう～	9:00 「チャレンジのためのマンダラチャートづくり」
	13:00 「チャレンジって何だろう」 ～自分にできるかな?～	13:00 思い出のモルック大会
	13:30 「マダガスカル・チャレンジの話を聞こう」	14:00 私のチャレンジ発表会
	15:00 「チャレンジに必要なもの」 ～先輩たちのアドバイスを聞こう～	15:00 退所のつどい
	18:00 「協力する仲間になろう」 ～うどん作り～	



3 事業の特色

ボランティア活動を行うには、さまざまなスキルが必要となるが、今年度はとくに主体的な行動を促す「チャレンジする力」の醸成に焦点を絞った。大リーグで大活躍している大谷翔平選手が高校生の時に書いた「マンダラチャート」を示すことで、チャレンジするには、さまざまな要素に目を向けることが大切であることを説明した。そして、各々のチャレンジしたいことに向けて自分の「マンダラチャート」を完成させることを目指した。はじめに、当所スタッフが海外協力隊員としてマダガスカルに赴任した経験を話し、チャレンジの意欲を高めた。チャートを一人で完成させることは難しいので、人生の先輩である当所のスタッフやイモームズ(大学生ボランティアスタッフ)、フォローアップ研修で参加された教員のもとをワールドカフェ形式で訪れて話を聞き、ヒントをもらう展開にした。また、仲間からもヒントをもらいやすくするため、参加者同士が触れ合い協力するアクティビティも間に取り入れた。

4 成果

参加者は、「マンダラチャート」づくりに苦勞していたが、仲間や先輩からヒントをもらい、少しずつ完成させていった。「私のチャレンジ発表会」では、お互いのチャレンジを評価しあう姿が見られた。昨年度同様、ねらいを絞って、プログラムを組んだことは、非常に効果的であった。

「わくわくどきどきスプリング」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

- ・ 自然体験活動、宿泊体験活動による親子の絆づくりの場の提供
- ・ 福祉部局と連携し、県の施策の情報提供の場とする

2 事業の概要 【予定】

- (1) 開催日 3月9日(土)～10日(日)
- (2) 対象 島根県内ひとり親家庭の親子 20組
(子どもは安全面を鑑みて年中～小学6年生、中学生)
- (3) 連携機関 県青少年家庭課 ひとり親支援グループ
- (4) 内容
 - ① 親子で自然遊び「春をみつけよう」
 - ② 親子でつくろう「葉っぱでスタンプエコバッグ」
 - ③ 親：ホットひとときおしゃべりタイム
子：車いすバスケット体験(中・高学年、中学生)
イモームを探せ&カブラ(年長、低学年)
 - ④ みんなで野外炊飯「カレーづくり」
 - ⑤ みんなでつくろう「光の芸術」
 - ⑥ 親子で挑戦「冒険の森」(雨天：室内探検ゲーム)
 - ⑦ 親子でつくろう「森の写真立て」



3 事業の特色

県教委による「青少年社会教育施設での野外体験(キャンプ・バーベキュー等)活動機会の充実」の取組を受け、ひとり親家庭の親子対象とした事業で、今年度で2回目となる。県の青少年家庭課ひとり親支援グループに事前の広報や当日の情報提供の協力を得る予定である。

プログラムには、親子で楽しめる体験活動だけではなく、親同士の対話やつながりづくりを目的としたワークショップ「ホットひとときおしゃべりタイム」を設けている。

4 成果(R4年度)

参加者からは、「なかなか親子2人でキャンプ体験ができなかったので、今回の事業にとっても感謝している。」「子ども達の自主性やできないことは皆で力を合わせてやろうとする姿勢など成長を感じた。」などの感想がよせられ、事業の目的にせまることができたのではないかと考える。「ホットひとときおしゃべりタイム」では、親同士で楽しみながらコミュニケーションを深めている様子が見ええた。また、その後の県青少年家庭課からの情報提供には、興味深く耳を傾け、質問をする方もおられ、来年度以降も連携して事業を行っていきたい。より多くの体験を提供したいという思いから、内容を詰め込みすぎたため、疲労感を覚えた参加者もおられた。令和4年度のふりかえりをもとに、令和5年度は内容を吟味し、ゆとりをもったプログラムにしている。

「わくわく外遊びデー」実施報告書

島根県立少年自然の家

1 趣旨

どんぐりの谷や冒険の森、体育館等を開放し、自然体験や体力向上の機会を提供するとともに、広く施設の利用促進を図る。



2 事業の概要

- (1) 開催日 毎月1回（日曜日）日帰りで開催。10時～15時30分
- (2) 対象 誰でも参加可能
- (3) 内容 どんぐりの谷遊び、ソロ炊飯（2回）、冒険の森、体育館活動、月ごとのイベント
- (4) 前日から来所し前泊体験も可能とした（5月～10月はケビン泊を実施）
- (5) 周知方法：チラシ配布（前半と後半に分けて2回）。HPやLINE公式アカウントも活用
- (6) 参加人数

開催日	参加人数	前泊人数	イベント	参加者の区分
4月23日	234	19	山菜てんぷら	・成人 47% ・小学生 27% ・幼児 25% ・中高生 1% 1月まで
5月28日	123	3	ミクロの世界	
6月19日	43	0	草笛を吹こう	
7月23日	63	0	水てっぽう	
8月28日	38	0	セミのぬけがらがし	
9月24日	52	0	うらじろバッタづくり	
10月29日	— オープンデーとして開催 —			参加者の住所 (割合の多いもの) ・浜田市 48% ・江津市 30% ・出雲市 9% ・大田市 9% 1月まで
11月26日	46	3	自然あそび	
12月17日	10	0	たき火をかこんで①	
1月29日	30	3	たき火をかこんで②	
2月25日	-	-	たき火をかこんで③ (予定)	
3月24日	-	-	イモムとかくれんぼ(予定)	

3 事業の特色

主催事業の中では、数少ない毎月開催で自由参加の事業である。どんぐりの谷では、そり遊び、ネット登り、ブランコ、ハンモック、弓矢遊び等の手作り遊具を設置し、スタッフが安全を見守る中で、参加者は思い思いに遊ぶことができる。また、土鍋による炊飯活動のレクチャーを2回実施し、親子で楽しむ機会を提供している。月ごとのイベント、体育館無料開放、冒険の森も楽しむことができる。



4 成果

小学校低学年、幼児を中心に、親子で過ごす休日の憩いの場となっている。来場者は、東部出雲市からも1割程度と、全県への広がりを感じる。来場者の多くは、イベントに参加し、リピーターの割合も多く、「何度も来ていますが、初めてターザンロープとブランコができ、成長を感じました。」との声。施設遊具や活動を通し、子どもの成長を感じ、喜びをともにする家族の場ともなっている。



「その他の活動」

1 地域の体験活動支援事業

(1) 趣旨

島根の教育資源を生かした体験活動の普及啓発を図る。

(2) 今年度の取組

日にち	依頼者	支援内容	支援した場所
7月12日	吉賀町教育委員会	川活動における安全について現地で指導 参加者：公民館職員及び活動協力者 2名派遣	高津川
8月10日	温泉津小学校PTA	キャンプファイヤーの企画相談及び安全指導 参加者：PTA 役員 1名派遣	温泉津小学校
9月22日	邑南町教育委員会	体験活動における安全管理について指導 参加者：公民館職員 3名派遣	邑南町健康センター 元気館
10月20日	邑南町役場 医療福祉政策課	放課後児童クラブにおけるリスク管理について指導 参加者：放課後児童クラブスタッフ 1名派遣	邑南町役場

※ 別に、浜田教育事務所社会教育スタッフ会及び益田教育事務所社会教育スタッフ会においても「野外体験活動における安全管理研修」の講師を務めた。

2 出前研修

- ・小学校や児童クラブ、まちづくりセンター、公民館に依頼され、火おこし、創作活動、レクリエーション、テント設営等の研修を計5回行った。
- ・コロナ禍の終息により、前年度に比べ需要が減少した。

3 山陰地区青少年教育指導者研修会（主催 国立三瓶青少年交流の家）

日時：令和5年11月20日（月）～11月21日（火）

場所：島根県立青少年の家（サンレイク）

内容：自然体験活動とインクルージョン・人間関係づくりの理論と実際・サバニ体験等

4 島根県三青少年教育施設連絡協議会（主催 国立三瓶青少年交流の家）

日時：令和6年1月15日（月）～1月16日（火）

場所：国立三瓶青少年交流の家

内容：情報共有・SAP(人間関係づくりプログラム)・自然観察の技能「冬の森探検」等

5 広報活動

(1) LINE 登録者数 789人（1月末日現在）

（令和3年10月3日開始、昨年同時期より140人増）

(2) 山陰中央新報 「生活アップデート」面に主催事業「わくわく外遊びデー」について掲載

(3) 石見ケーブルビジョンが主催事業「ジュニア・ウインター・キャンプ」を取材

12月27日から事業の様子を放映

(4) 三瓶青少年交流の家・青少年の家との合同出展 in イオンモール出雲

日時：2月17日（土）・2月18日（日）

内容：創作活動（ぶんぶんゴマ） チラシ等配布

令和 5 年度施設設備・修繕報告

令和 6 年 1 月末現在

1 管理・宿泊棟関係

(1) 管理・宿泊棟

- ・【仮設】宿泊棟・食堂厨房火災感知器（火災通報設備の故障による仮設）
- ・【修繕】第 3 研修室用エアコン室外機

(2) 体育館

- ・【修繕】体育館多目的トイレ建具

(3) ケビン棟

- ・【修繕】ケビン棟火災感知器
- ・【修繕】ケビン棟建具

2 野外施設

- ・【修繕】冒険の森「原野からのとんぼ返り」
※ 3 月完了予定

3 設備

- ・【設計】火災通報設備 ⇒ R 6 工事（調整中）
- ・【更新】浄化槽（ブロワー・ポンプ更新工事）
- ・【修繕】消火ポンプ・消化水槽
- ・【修繕】ろ過装置
- ・【増設】電気室外灯工事

4 備品

- ・【更新】厨房野菜スライサー
- ・【更新】厨房スチームコンベクションオーブン
- ・【更新】生ごみ処理機
- ・【修繕】厨房殺菌庫

令和6年度 実施予定主催事業概要一覧

島根県立少年自然の家

No.	事業名	予定期日	対象	定員	内容
1	利用団体指導者研修会(前期)	4/25(木)	4月～8月31日入所予定団体担当者	40名	宿泊活動の事前研修、プログラムの作成
2	第1回運営委員会	6/21(金)	運営委員13名	-	今年度事業計画、経営方針等協議
3	チャレンジ・ザ・サマー	7/20(土)～21(日)	小学生とその保護者	30組	家族の交流を深めるための夏のお手軽キャンプ(ケビン棟も利用)
4	利用団体指導者研修会(後期)	7/25(木)	9月1日～3月31日入所予定団体担当者	40名	宿泊活動の事前研修、プログラムの作成
5	ジュニア・サマー・キャンプ	8/18(日)～8/23(金)	小学5・6年生	24名	非日常体験での気づきをもとにした新たな自分の発見・追求、人間関係づくりをめざした長期宿泊体験活動
6	子ども探検隊	10/12(土)～13(日)	小学3・4年生	24名	探検的要素を盛り込んだ自然体験活動
7	オープナー	10/27(日)	誰でも(高校生以下は保護者同伴)	-	施設開放による体験活動(野外活動、創作活動、各団体・個人ブース)
8	エンジョイ!アウトドア	11/1(金)	西部地区教育支援センター 他	-	炊飯や冒険の森を楽しむ野外体験活動
9	森と海のつどい	11/2(土)～3(日)	小学4～6年生とその保護者	20組	自然の家とアクアスでの体験活動
10	かわいい子には旅をさせよう!	①11/16(土)～17(日) ②12/7(土)～8(日)	小学1・2年生	48名 (各回24名)	自主・自立の精神を養うための自然遊びや集団宿泊体験活動
11	ジュニア・ウインター・キャンプ	12/26(木)～27(金)	小学5・6年生	24名	人間関係能力を育むため、厳寒期における短期集団宿泊体験活動
12	ボランティアスタッフ養成講座	2/8(土)～9(日)	小学5・6年生 中学1・2年生 (過去主催事業参加者)	30名	ボランティアの意欲やスキルを高める体験活動
13	第2回運営委員会	2/21(金)	運営委員13名	-	今年度事業報告、施設整備・修繕報告、今年度の課題協議
14	わくわくどきどきスプリング	3/8(土)～9(日)	ひとり親家庭	20家族	自然体験、宿泊体験活動による親子の絆づくり
15	わくわく外遊びデー	原則毎月1回開催 (日曜日) ※8月、10月は除く	誰でも(高校生以下は保護者同伴)	-	施設を開放し、外遊びや自然遊びを楽しむ家族の体験活動

令和6年度入所予定(団体分類別)

令和6年2月7日現在

入所月 団体分類		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
		学校	幼稚園・ 保育所		1	1					1			
小学校			10	16	4		8	15	3					56
中学校								1						1
高等学校	3			1		1		1	1					7
大学等														0
特別支援 学校								3	1					4
各種学校				1										1
小計	3		11	19	4	1	8	20	6	0	0	0	0	72
社会教育		2	2	1	1	2		2	3		1	1		15
社会生活		1									1			2
企業														0
個人						1								1
視察														0
計		6	13	20	5	4	8	22	9	0	2	1	0	90

※月をまたいでの入所は前月にカウント